

本報告書は、「病床機能の分化・連携や病床の効率的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究」班の平成 28 年度研究成果物である。当研究班は研究課題が多岐にわたるため、参考として、6 つの分担研究班の概要を以下に示す。

#### 1. 医療計画班

(概要) 平成 30 年からの第 7 次医療計画について、5 疾病 5 事業を中心とする施策の PDCA サイクルに資する議論を行い、必要な指標を整理した。

(成果) 都道府県が医療計画を策定し、進捗管理するための資料として公表し、医療計画に関する厚生労働省地域医療計画課長通知で参照先に指定された。

#### 2. 定量分析班

(概要) 平成 28 年度分福岡県の病床機能報告をデータベース化し、自己申告された病床機能と客観的な各種指標との関係を分析し、病床機能選択の定量的な基準を作成するための評価軸を検討した。

(成果) 特に回復期と慢性期について、一定の定量基準を作成できる可能性が示された。

#### 3. 事例統括班

(概要) 各病院団体を通じ、全国の病院から、病床機能の分化・連携や病床の効率的利用等に関する参考事例を収集した。

(成果) 全国の 75 医療機関より 101 の事例を収集し、整理した。

#### 4. 地域事例班

(概要) 大腿骨頸部骨折患者の病院間の連携パスをもとに、急性期病院から回復期病院への地域連携のあり方を具体的に示した。また、北海道及び石川県の先進事例を視察した。

(成果) 病院間連携パスの具体的なあり方及び視察の成果を整理・公表した。

#### 5. 実地検証班

(概要) 奈良県のレセプトデータを用いて病院機能の分類を検討した。

(成果) 各種指標の活用により、病院機能の一定の見える化が可能であることを示した。

#### 6. 専門医需給班

(概要) 診療領域別・地域別の医療行為需要の推計方法及び医師の流動性を検討した。

(成果) 最適な専門医数を専門医の需要面から推定することは困難であること、医師の地域をまたいだ流動性の考慮が必要であることが明らかとなった。